本を選ぶ
高校図書館版

NO.51 2011年(平成23年)5月10日
http://www.las2005.com

●発行／ライブラリー・アド・サービス
〒162-0825 東京都新宿区神楽坂 5-20-5-504 TEL=03-3235-6168

ろん・ぽわん

放射能と放射線

先日、都内の私立高校三年生に在籍する息子の保護者会がありました。例年なら、最終学年の大イベントである大学受験に向けての話に終始するはずが、今回のクラス懇談会は、なんと物理の先生による「放射線と放射能の違い／福島原発のニュースを読み取るための基礎知識」講座でした。

先生は、この講座を保護者向けに実施した理由を、「3月11日に起きた福島第一原発の事故は現在も進行中で、多くの日本人が信じていた原子力に対する安全神話が崩れてしまった。でも我々は、この国でこれからも生きていかなければいけない。それなのに、原子力について正しい知識を持つ人間が少なく、理科教師である自分でさえ、生徒に教えられる知識がなかった。定期的に理科教師が集まって意見交換をしている会でも、このことが話題になり、我々がまず正しい知識を身につけ、子どもに伝えようということになり、急遽みんなで勉強会をした。残念なことに日本は世界唯一の被爆国でありながら、今まで放射能に対する教育はほとんど抜け落ちていた。放射線による人体への影響もサンプルが広島の原爆やチェルノブイリ事故など数えるほどしかないために、確定的影響は分かっても、確率的影響まではまだ分からない状態で、受験にも出ない範囲なので、教師でもよく知らない分野だったことに愕然とした。しかし、現在の子どもには、放射線を極力防御し生きていくことは、受験より大切で絶対必要な知識であり、我々理科教師は教える使命があると思う。そこで公立高校は不明だが、とりあえず我が校では、今年度から全学年の最初の理科の授業で放射能についての基礎知識を教えることにした。さらに理系の子どもには、詳細にメルトダウン(炉心溶融)・放射能汚染まで触れた」と述べられました。

この日、放射線を出す能力を「放射能」、この能力を持つ物質が「放射性物質」であり、懐中電灯に例えると、光が放射線、懐中電灯が放射性物質、光を出す能力が放射能だということを知りました。

最近、息子がニュースを見ながら、「ヨウ素は、184℃で気体になる」「燃料棒が損傷しているなら被覆管の融点は1850℃だから、それ以上の高温だよ」などとつぶやき、水素爆発を回避するために窒素を入れる理由を化学式で説明してくれて、どうしてそれほど詳しいのか不思議でしたが、その謎が解けました。

息子が、「これほど、実生活に役立つ勉強はない。でも、人間って無力だね。汚染された土壌も表土を削って改良しても完全に放射性物質を取り除くことは現在の科学技術では無理。今回の大震災で、科学で解明できていることはほんの僅かで、自然は人間の想定なんて簡単に越えてしまう。せめて僕らは正しく知識武装して、風評に惑わされず自分自身で判断していかなきゃなぁ……」と言うのを聞きながら、先生の想いが子どもに受け継がれていることを実感しました。(中村涼子)

データベースで本・人・図書館を活かす

—先生のための授業に役立つ学校図書館活用データベース—

東京学芸大学では附属学校の学校図書館が中心となって、2009年12月に「先生のための授業に役立つ学校図書館活用データベース」を構築しました。これは、教員が授業づくりのために学校図書館に寄せたレファレンス（資料相談）事例を集めたもので、授業後の教員と図書館員のコメントをつけ、授業でつかった本と活動を詳しく紹介しています。可能なものは事例に学習指導案をつけている点が特徴で、国立国会図書館のレファレンス協働データベースとも一味違うレファレンスデータベースになっています。

附属小金井小学校の司書・中山美由紀さんにお話を伺いました。

学校図書館運営専門委員会の発足

東京学芸大学の現在の附属学校は、幼稚園・小学校・中学校・中等教育学校・高等学校・特別支援学校と全校種13学校園があります。各校園の図書館担当、附属学校運営部・課、大学附属図書館三つの団体で構成される学校図書館運営専門委員会（以下、運営専門委員会）が学校図書館の運営の改善を目標に発足したのが2007年でした。

世田谷地区の小学校司書と中学校司書が20年以上勤務するベテランで、入れ替わり立ち替わりでも常に司書がいた附属高等学校と小金井小学校の4校の整備状況は良かったのですが、2003年に初めて司書を入れた二つの中学校（うち1校は後に中等教育学校となった）、2007年夏に一人の司書を迎えた竹早小中合同図書館、2009年に司書を迎えた大泉小学校は、棚のレイアウトも変わり、排架を見直し、古い蔵書は廃棄して新しい本を入れ、見違えるように充実してきました。しかし、20年かけて作り上げた世田谷小学校と世田谷中学校の蔵書はすばらしく他の附属とは一線を画しています。蔵書構築は短期間ではできない積み重ねだということがわかります。

2004年ごろから月に一回、非公式に行っていた司書連絡会がありましたが、2007年からは、運営専門委員会というオフィシャルな学校図書館研究・会議の場ができたということになります。中央大学附属高等学校図書館、埼玉県立不動岡高等学校図書館、調布インターナショナルスクール内の小・中・高等学校それぞれの学校図書館の見学会も行なわれました。

また大学内の連絡便で附属学校間と大学図書館の資料協力ができるようになりました。

文部科学省の事業応募

2009年3月に文部科学省の「学校図書館活性化推進総合事業」の「教員のサポート機能強化に向けた学校図書館活性化プロジェクト」の募集があり、運営専門委員会として、先に紹介した教員に向けた学校図書館のデータベース構築を計画して応募し、委託されました。

2010年度は「確かな学力に関わる実践的調査研究」の「学校図書館の有効な活用方法に関する調査研究」として継続されました。一年目は附属学校のみの学内事例を収集し、二年目は学外のいい実践を行っている学校の事例協力を得ることができました。

また、このプロジェクトにおいて司書が未配置の附属特別支援学校には、布絵本やマルチメディアデイジー図書を揃え、外部のベテランの司書を派遣し、環境づくりとおはなし会をしてもらっていました。

学校図書館データベースの構築

学校図書館の機能には読書センター・学習・情報センターに加えて、教員の研究を支援する「教材センター」の機能もあります。教員養成の基幹大学である東京学芸大学だからできることとして、現職教員と学生へも貢献することを目指し、まずは附属学校から図書館活用を活発にしようと考えました。

一人でも多くの先生に学校図書館をもっと授業で役立ててほしい、授業づくりの段階から教材相談してほしいという思いがあります。調べ学習だけが学校図書館の活用とは限りません。日常の活動から多様な使われ方までが表現できるよう考えました。

そこで教員からのレファレンス事例のみならず、「学校図書館の日常」というコンテンツを作り、普段の学校図書館の活動を紹介することにしました。この日常があればこそ、授業時も子どもたちは本が使えるのです。

データベースの内容

データベース内は以下のような構成になっています。

1．学校図書館活用データベース

学校図書館に相談を持ちかけられた授業実践を蓄積。校種、教科・領域別に検索ができ、可能な限りブックリストと指導案、ワークシートをつけました。

2．授業と学校図書館

学校図書館を理解し、魅力的な授業を展開している先生へのインタビュー

3．情報リテラシー教育

図書館のしくみを理解し、上手に学校図書館が使えるようになるための情報活用や利用指導に関する事例の紹介。

4．学校図書館の日常

以下六つのコンテンツを附属学校の司書たちが月替わりで分担して担当しています。これらは下にスクロールをすると読むことができます。

トピック：学校図書館の最新話題

よみきかせ（おはなし）／ブックトーク／広報／テーマ展示／子どもへのレファレンス

私たちはこの日常の活動が何よりも大事だと考えています。いろいろな手立てで子どもと本をつなぐ日常があってこそ、授業で活用されるのです。要望により、過去の記事も蓄積・公開することができるようになりました。

5．テーマ別ブックリスト

データベース事例中にあるブックリストはもちろんのこと、必要に迫られてつくったブックリストも載せてあります。あわせて、web 情報もいれました。リンク先にエクセルファイルのままダウンロードできるようにしてあるので、加工してお使いください。今は五十音順に掲載していますが、いずれは分野別にしたいと思っています。

6．このサイトについて

リンクフリー宣言、出版社へのお願いなどの記事のほか 2010 年事例協力校の一覧が出ています。

実際には web サイトをご覧ください。（東京学芸大学附属図書館トップページの右下の緑色のバナーから入れます。または、Google で「授業に役立つ学校図書館」と検索すると上位にあります。http://www.u-gakugei.ac.jp/~schoolib/htdocs/）

見えてくるニーズとサポート

データベースは、図書館の仕事を可視化したといえるでしょう。これまでは返却された資料のうちどれがどう役に立ったのかよくわからないままでした。それらを評価して、見える形にすることができました。また事後のコメントを教員と学校図書館員の双方から書き込んでもらった点や教員インタビューなども特徴です。教員がよりよい授業を作るためにコミュニケーションをとっていくことの大切さを改めて感じています。

平成 23 年度から新しい学習指導要領が小学校はスタートします。総合的な学習の時間そのものは時数が減らされていますが、図書館の活用や探究学習は様々な教科・領域に入り込んできています。現職の先生方も、学校図書館員も、学生さんも、このデータベースをぜひ活用して、図書館を上手く使っていってほしいと思います。

データベース構築後、より充実した、みんなで使う学校図書館を実現するため、司書の役割は大きくなり、仕事も増えているようでしたが、それをバネにする輝きが中山さんから伝わってきました。（LAS 探検隊）

（平成 21・22 年度報告『みんなで使おう！学校図書館』東京学芸大学附属図書館のホームページ内のリポジトリにて検索、本文参照できます。）

ニューカマーの生徒に学校図書館ができること

高度成長期以降に日本に居住することになった外国人のことを「ニューカマー」と呼ぶそうですが、
このような生徒に対して、学校は、そして図書館では何ができるのでしょうか。

宮崎 健太郎

私の勤務校には様々な国にルーツを持つ生徒がいます。一昨年のこと、勤務校に母語がタガログ語という生徒（以下仮名ですがサチと呼びます）が入学してきました。彼女は、中学一年までフィリピンに住み、英語での教育を受けています。母語を習得してから日本に住むようになった生徒です。入学時、彼女の日本語レベルは日常会話程度で、授業を理解することは難しいようでした。学校では特別支援チームを中心に支援体制を組み、県から派遣された日本語支援コーディネーターによる日本語の補習授業を週一回行ったほか、継続的に授業の資料等へのフリガナなどの配慮で、彼女を支援しています。

人なつっこいサチはよく図書館にやってきては雑誌を眺めたり、私といろいろ話をするのですが、読書については、読める本はここにはない、と、諦めているようです。近隣の高校や公共図書館にある英語の資料のリストを手渡したりもしましたが、こんなことでいいのかなぁ、と悩んでいました（館種を越えて散らばる様々な言語の資料を、それぞれの言語のインターフェイスで横断検索し、融通できるようなシステムなんてないものかなぁ）。

先進地域大阪での支援　その一

学校でできることとして、本校の特別支援チームが参考にした資料のなかに、志水宏吉編著の『高校を生きるニューカマー　大阪府立高校に見る教育支援』（明石書店、2008）があります。外国人生徒が公立学校に進学する比率が他の自治体と比べて高い大阪府。同書は大阪の教育のバックボーンにも触れながら、行政や各学校が、ニューカマーの生徒（日本にルーツを持つ「帰国生」・ルーツを持たない「渡日生」）に対してどのような支援を行っているのかまとめています。

まず、帰国・渡日生の入学特別枠を持つ高校があり、渡日生担当教員や教育サポーター（生徒の母語を理解し、指導補助を行なう）はじめ、多くの人的な配置があるとか。また日本語教育だけでなくさまざまな科目での抽出授業や補習授業、帰国・渡日生の持つ言語やエスニシティへの配慮（母語教育）、帰国・渡日生同士の日常交換の場の設置、日本人生徒への異文化に対する教育、地域ＮＰＯ等との連携など実に多岐にわたる支援を行っています。特別枠がない学校でも、常勤・非常勤の加配や教育サポーターなどの人的配置があるほか、国際交流協会をはじめ、地域にある様々な支援のネットワークを活用しているとのこと。私の勤務校の置かれている状況とは差がありすぎる……と思いつつも、支援の観点を知るのに大いに参考になりました。また、大阪のニューカマーの生徒に行った訪問調査やインタビューのまとめから、彼らが抱えている問題を知る手がかりともなります。

先進地域大阪での支援　その二

そんな先進的な取り組みをしている大阪府立高校の図書館ではニューカマーの生徒たちに対してどんな配慮をしているのでしょうか。学校図書館問題研究会のつながりで面識のある大阪府立高校司書の知人に尋ねてみました。彼女の勤める学校には、帰国生の特別枠があるほか、留学生もいるとのこと。

「そもそも大阪は渡日生の生徒の数が多いので、支援も必要に迫られて進んでるのでは」という言葉が印象的でした。

図書館での資料提供は、彼らの母語資料や読書のための資料提供というよりは、授業の教材として日本語の資料を提供することが多いという話でした。漢字の書き方など日本語教材や、日本語のやさしい小説を準備しているほか、学年や教科からの依頼で、日本の習慣や行事についてやさしく書かれている資料を、といったレファレンスもあるそうです。

やさしく書かれている、といって、極端に子ども向けの資料を出すのははばかられます。授業の

ニーズも把握しておきながら、生徒の自尊心を大切にしつつ提供できる日本語の資料を普段からピックアップしておく必要がありそうです。

また、彼女が重視しているのは、教室以外の居場所として図書館が機能し、必要ならばいつでもニューカマーの生徒たちが来館できるようにしておくこと。帰国生の抽出授業で図書館を使うこともあり、図書館は帰国生や留学生が集まるサロンともなっているそうです。異なるバックボーンを持つ彼らは、私たちと違う常識や考え方を持ち、日本の常識や同級生との人間関係で思わぬ点につまずいていることも。校内の一人の大人として彼らの聞き手になってあげることも重要だと彼女は言います。

辿り着いてみれば

ニーズを把握しながら蔵書を選ぶこと、生徒の個に向き合い、対応する…と考えていけば、行き着くところは日本人の生徒に行っていることと一緒。肩肘張ってなにかしようとするのではなく、普段の仕事に、少しだけ目配りしていけばいいのかな、と思えるようになりました。

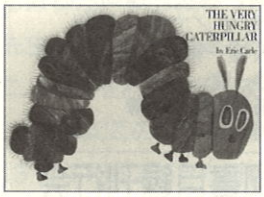
今日も館内でファッション誌を読んでいたサチが話しかけてきました。気づけば、以前はグラビアページしか見ていなかったファッション誌、今日はグラビア以外のページも読んでいる様子。

これでいいのかとも思えた一瞬でした。

（みやざき　けんたろう：埼玉県立新座高等学校司書）

2011年度 英語名作ライブラリー

英語版 ミッフィー・セット
英語版 世界の名作絵本シリーズ
英語版 アイ・スパイ・ミッケ！シリーズ
英語版 かえるくんとがまくんセット 他





株式会社 三善　〒167-0032　東京都杉並区天沼2-2-3
TEL:03-3398-9163　FAX:03-3398-9170

歴史上の人物を、伝記物語と資料で紹介
「調べ学習」や家読にも最適のシリーズ
よんで しらべて 時代がわかる
ミネルヴァ日本歴史人物伝　文・西本鶏介

AB判各32頁／各2625円／オールカラー／総ルビ

聖徳太子　監修 山岸良二　絵 たごもりのりこ
聖武天皇　監修 山岸良二　絵 きむらゆういち
紫式部　監修 鵜谷 寿　絵 青山友美
源頼朝　監修 木村茂光　絵 野村たかあき
足利義満　監修 木村茂光　絵 宮嶋友美
雪舟　監修 木村茂光　絵 広瀬克也
織田信長　監修 小和田哲男　絵 広瀬克也
豊臣秀吉　監修 小和田哲男　絵 青山邦彦
徳川家康　監修 大石 学　絵 宮嶋友美
杉田玄白　監修 大石 学　絵 青山邦彦
坂本龍馬　監修 大石 学　絵 野村たかあき
福沢諭吉　監修 安田常雄　絵 たごもりのりこ

ミネルヴァ書房　京都市山科区日ノ岡堤谷町1
TEL075-581-0296　※価格税込



福井県教育委員会編・発行

白川静博士の
漢字の世界へ

B5判並製／288頁 オールカラー
定価1,680円（税込）

漢字と中国古代の研究で名高い白川静博士の故郷・福井県では、白川文字学にもとづく独自の漢字教育に取り組み、めざましい成果をあげています。
本書は、2008年から福井県内の全小学校で使われ、全国的に注目されている漢字学習本をさらに見やすく改訂したものです。

平凡社　〒112-0001 東京都文京区白山2-29-4
Tel 03-3818-0874　Fax 03-3818-0674
http://www.heibonsha.co.jp/

ヤングアダルト図書総目録

2011年版発行！　103社、約2,600点を掲載



中学校・高等学校・公共図書館
選書利用率 No.1
※朝の読書に最適

■巻頭エッセイや『朝の読書』実践校紹介の頁も充実。

ヤングアダルト（YA）とは、主に中学、高校生（13～19歳）を対象とした呼称です。本目録ではこの多感な世代にお薦めの本を紹介しています。

※書店様へご注文ください。＜頒価300円（税込）＞

ヤングアダルト図書総目録刊行会
〒162-8710 東京都新宿区東五軒町6-24 トーハンビル内 電話03-3266-9521

クモ・ダニ・サソリのなかま
知られざる動物の世界⑦ 定価3570円

生物の多様性百科事典
野中浩一・八杉貞雄訳 定価21000円

ペンギン 化学辞典
山崎 昶監訳 定価7035円

法と心理学の事典
越智啓太ほか2名編 定価14700円

日本語文章・文体・表現事典
中村 明ほか5名編 定価19950円

'11総合図書目録あります。ご請求下さい。

朝倉書店 東京都新宿区新小川町6-29 〒162-8707 ☎03-3260-7631

世界文学あらすじ大事典



有名な世界の名作ってどんな話なのか知りたい。先生に薦められた本について調べたい。読書感想文や演劇の上演にぴったりの物語を探したい。そんなさまざまな要望に応える決定版事典！
名作一〇〇一篇を選りすぐり、詳しいあらすじをたどるほか、作家略歴・翻訳リスト・肖像写真などを完備。学校図書館のレファレンスに最適です。
B5判・上製クロス装・函入・平均709頁
各巻18900円（揃75600円）
横山茂雄 石堂 藍 監修
内容見本呈
ⓒ978-4-336-04698-7 ⓓ978-4-336-04699-4
ⓔ978-4-336-04700-7 ⓕ978-4-336-04701-4
国書刊行会 〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15 TEL.03-5970-7421 FAX.03-5970-7427 【税込価】



東海道新幹線 車窓で楽しむ ローカルグルメ事典
蓮実香佑著 東海道新幹線沿線の名物や食の逸品を紹介。その土地の歴史や地形、風土と関係して成立つローカルフードの歴史や文化を判りやすく解説。
四六判 284頁 定価2,100円



浄土教の事典
法然・親鸞・一遍の世界
峰島旭雄監修 比較宗教学からみた初の本格的、浄土教の事典。浄土三部経の概説から、歴史、252項目におよぶ詳細な事項解説、年表、浄土建築・庭園まで、浄土教にかかわる事項を網羅。
四六判 386頁 定価3,465円
（価格は税込）
東京堂出版 http://www.tokyodoshuppan.com

NO. 28
部落解放・人権図書目録
2011 A5判／122頁／頒価300円（税込）
●2010年11月までに刊行（予定も含む）されている書籍1,021点を紹介。ISBNコード付。
項目
《部落問題》総記・事典／現状／運動／教育／行政／歴史／文化・思想
《人権》基本的人権／人権一般／性差別／他
部落解放・人権関係雑誌一覧
書名索引・著者索引・掲載出版社名簿
●書店様にてご注文ください。
部落解放・人権図書目録刊行会
〒162-8710 東京都新宿区東五軒町6-24 トーハンビル内
TEL 03-3266-9521

さあ，哲学をはじめよう！
合計60万部を売り上げた，日本史・世界史・政治経済に続き，今度は「倫理」高校教科書をベースに，資料やコラムを追加して編集。あのころ難解だった倫理がスッキリ読める，大人のための教科書です。
もういちど読む 山川倫理
好評発売中！
小寺 聡 編
●定価1575円(税込) ●A5判 ●ISBN:978-4-634-59071-7
山川出版社 〒101-0047 東京都千代田区内神田1-13-13 TEL 03-3293-8131
FAX 03-3292-2994

今、もっとも日本国民に必要な本です！
知ろう！防ごう！自然災害



自然災害のしくみと災害への備えがよくわかる！
①地震・津波・火山噴火
②台風・強風・豪雪・洪水
③世界の自然災害と取り組み
佐藤隆雄 監修
【全3巻】A4変型判/各48頁
ISBN978-4-265-10554-0
NDC 519
●揃定価9,450円(揃本体9,000円)
岩崎書店 東京都文京区水道1-9-2 TEL.03-3812-9131
http://www.iwasakishoten.co.jp